

文化財を訪ねて

—見てある記—

獅子舞始めました

煌びやかな神輿や山車が練り歩き、旧中山道が1年で最も賑やかさに包まれる桶川祇園祭。それに彩を添えるのが「お囃子」です。お囃子を上演する団体のうち榮町囃子連では、今年から新たに獅子舞を取り入れました。これは囃子連の若手の熱望により実現したものです。

獅子舞は、新井敏昭^{あらいとしあき}さんの指導のもと、半年間、練習を重ねてきました。獅子の動きには30の型があり、それを演じ手が自由になぎ合わせて舞います。



獅子舞の練習風景。舞っているのは渡辺夏理さん

指導を受けた渡辺夏理^{わたなべなつり}さんと和智聡里^{わちさおり}さんは、「決まった動きがないのが逆に難しい。獣らしい動きを表現するのが特に難しかった」と振り返ります。

そして迎えた7月15日夜の初上演。山車の上では、和智さんがやや緊張した面持ちで獅子頭をかぶります。



山車の上で出番を待つ和智聡里さん

「おかざき」という曲目に合わせて、獅子舞が始まりました。当初想定していなかった「子どもの頭噛み」もアドリブで対応。沿道から歓声が上がるほどの盛り上がりを見せました。若手の奮闘を見守る囃子連副会長の宮原文子^{みやはらあやこ}さんは、「新しい試みが始まったことを大変嬉しく思う。獅子舞の話が人から人へと伝わり、コミュニティの輪が広がっていけば」と話します。獅子舞を指導した新井

さんも、「囃子と獅子舞の息が合っていたね」と二人の舞を絶賛。



新たな伝統の幕開けです

囃子連会長の黒須秀一^{くろすしゅういち}さんは、「これまでにはなかった『新たな風』が吹いている。若手の取り組みをサポートしていきたい」と、獅子舞の今後に期待を寄せます。

半世紀以上にわたる榮町の囃子の伝統の中で、またひとつ新たな伝統が生まれました。

詳しくは口文化財課 ☎786-4009